

怪者ん



おもちゃの神さま 住吉っさん

が ん ぶ つ し ょ う じ ょ う や い し ど う ろ う 翫物商常夜石燈籠

— 令和の大改修 —

住吉の境内には大きな石燈籠いしとうろうが数多くありますが、ひとときわ目をひくのが「翫物商常夜石燈籠」と呼ばれるものです。そりはいし反橋をわたって石畳いしだたみの参道の南北に一对あります（本誌第13号に関連記事あり）。

翫物商というと、何やら難しい言葉のようですが、いわゆる「おもちゃ」を取り扱う業者のことで、人形や玩具の製作、販売や流通に関わりました。

江戸時代の上方、特に大坂（大阪）は、玩具・人形などの翫物の中心地でした。京都からは人形の顔や西陣織の雛着物などが大阪に運びこまれ、大阪では雛飾りなどの玩具を全国に出荷し、また、全国の玩具・人形も大阪に入荷されて賑わいました。そして、その流通を支えたのは海運でした。

江戸時代の翫物商は住吉大社に参拝し、商売を支える海運の守護ばかりでなく、業界の安全と繁栄を祈願してきました。そのため結成されたのが「翫物商住吉講」でした。結成年代は不詳ですが、遅くとも宝暦5年（1755）には活動が記録され、宝暦12年（1762）

に石燈籠を建立しました。それ以後、石燈籠をよりどころに玩具・人形商たちの信仰の中心地となりました。

現在では翫物商住吉講の後継講社である大阪玩具・人形住吉講の定例参拝と総会が行われ、国内すべての玩具・人形業界の繁栄と発展を祈願しています。また、その伝統によって日本全国の玩具・人形関係者からも崇敬されています。

令和2年（2020）11月20日、石燈籠の第6次改修工事が竣工となりました。令和の新しい御代と御大典を奉祝し、また、建立260年を記念してのことです。石燈籠の修復再建は、文化5年（1808）、明治15年（1882）、昭和3年（1928）、昭和36年（1961）、平成3年（1991）と時代を超えて受け継がれてきました。本事業にご尽力いただいた大阪玩具・人形住吉講の講元熊本和浩氏（60）は「この石燈籠は私たちの誇りです。業界の先人たちに敬意を表するとともに、玩具・人形の伝統を顕彰して後世に受け継いでゆきたいものです」と語られました。



翫物商常夜石燈籠（南基）



五井蘭洲筆「常夜燈」

「常夜燈」の文字は五井蘭洲（1697～1762）の筆で、江戸中期の大坂・懐徳堂でも教育を行なった儒者・国学者。石燈籠の建立年代から最晩年の書跡と思われる。



大阪玩具・人形住吉講（講元 熊本和浩氏）が中心となり、大阪府玩具・人形問屋協同組合連合会、大阪大物玩具問屋協同組合、大阪府玩具問屋協同組合、大阪府人形問屋協同組合、大阪玩具事業協同組合、一般社団法人日本玩具協会、東京玩具人形協同組合、関西節句人形工業協同組合、日本プラモデル工業協同組合のご協力のもと、次の会社および篤志者によってご協賛をたまわりました。謹んで御礼を申し上げます。

株式会社クマモト・同 熊本和浩氏・同 城 淳氏・同 井上洋一氏、株式会社熊本玩具・同 熊本盛行氏、株式会社スターコーポレーション、テイクハート株式会社・同 根岸秀和氏・同 松浦元輝氏、尾上敬一氏、株式会社甲山屋、株式会社辰巳屋、株式会社龍屋・同 徳永隆司氏・同 徳永和浩氏、株式会社トキワ商事、株式会社久宝堂、人形の熊野・同 熊野建介氏・同 熊野恵律子氏、株式会社人形の天明館、株式会社増村人形店・同 増村和行氏・同 増村智章氏、株式会社山本人形、会社イシグロ・同 石黒浩三氏、株式会社尾上萬、株式会社中須金属工業所、株式会社成近屋、株式会社ベル玩菓・同 松葉善治氏、株式会社ムラオカ・同 村岡邦廣氏、株式会社藤井玩具店・同 藤井真一氏、京都あしだや中山人形店、株式会社アガツマ・同 戸所正信氏、石川玩具株式会社、株式会社エポック社・同 前田道裕氏、株式会社オンダ、株式会社カワダ、コンビ株式会社、株式会社サンヨープレジャー・同 高谷昌宏氏、株式会社ジョイパレット、株式会社タカラトミー・同 富山幹太郎氏・同 富山彰夫氏、株式会社タカラトミー・同 小島一洋氏・同 鴻巣崇氏、株式会社タカラトミーアーツ・同 宇佐美博之氏、株式会社タカラトミーマーケティング・同 小越良充氏、株式会社トミーテック・同 岩附美智夫氏、パイロットインキ株式会社、株式会社ハナヤマ・同 小林邦広氏、株式会社ハピネット、株式会社バンダイ、株式会社バンダイロジパル、株式会社ビバリー・同 神下英輝氏、株式会社増田屋コーポレーション・同 齋藤晴正氏、株式会社メガハウス、株式会社やのまん・同 矢野美津子氏・同 矢野成一氏・同 矢野宙司氏、株式会社吉徳・同 山田徳兵衛氏、月刊トイジャーナル、日本トイズサービス株式会社、株式会社トイカード、以上。